校長室の窓から ～夢の扉 第19号～大阪編

Ｒ２．８．２４（月）

文責　学校長

２学期が始まります。

～後期補習もあと3日。新学期スタートの準備を～

１　武陵祭（文化祭・体育祭）の練習・準備が始まりました。

８月１７日（月）からの後期補習も無事スタートでき、残り３日間となりました。２８日（金）からは２学期が始まります。９月５日（土）・６日（日）に予定している武陵祭の開催も危ぶまれるところですが、今のところはお互いに感染防止策を十分にとりながら、また熱中症にも十分に気を付けながら練習・準備を進めてください。

２　県内でも感染が広がっています。今まで以上に感染拡大防止にご協力を。

第１波以上に第２波の感染が広がっている現状を十分に認識して、「感染しない」「感染させない」ための予防策に先生方も生徒諸君も今まで以上にご協力をよろしくお願いします。

３　全国高等学校クイズ選手権は秋（１１月３日予選）開催が決定しました。

例年夏の風物詩ともなっていました「**全国高等学校クイズ選手権**」の第４０回大会が、コロナウイルス感染拡大状況を考慮して秋開催に延期となりました。今年度は地方大会（１１月３日）は全国どこでもスマホ一斉参加として、全国１回戦（１１月１５日）もオンライン実施となりました。２回戦から決勝戦（１１月２２日・２３日）までは東京・日本テレビで開催の予定です。**エントリー期間は8月11日～10月20日**となっています。同じ高校の３人１チームでの応募となります。早めにエントリーして全国大会出場を目指したチャレンジを期待しています。詳細は番組ＨＰで確認を。

４　今週の故事成語・・・「泣いて馬謖を斬る（ないて　ばしょくをきる）」

【問題】「泣いて馬謖を斬る」を英語で表現すると？

私情を捨てて規律を通すこと。　（出典：『三国志』より）

【由来】「**三国志**」を題材とした故事成語で、「**将たる者は私情を捨てて大義を守る**」という意味があります。また、いかに有能で将来有望な人物であっても、法や規律の支配から逃れることはできないとの戒めが込められた言葉でもあり、多くの魅力的なエピソードをもつ三国志物語の中でも、とくに切なく胸を打つ名場面のひとつです。「**馬謖**」は、三国時代のカリスマ軍師として有名な「**諸葛亮孔明**」が実の子のように可愛がり、後継者として期待をかけていた人物で、諸葛亮の弟分だった「**馬良**」の実弟でもありました。しかし大切な場面で諸葛亮の命令に背いた馬謖は、独自の作戦に失敗して諸葛の軍を大敗させてしまいます。クールな諸葛亮は軍律を守るための見せしめとして、馬謖を斬る（死刑）というきびしい処断を下しました。たった一度の失敗で有能な部下を殺してしまった諸葛亮は冷徹な上司かもしれませんが、依怙贔屓（えこひいき）によって軍規が乱れるようなことがあれば、たとえ天才軍師でも優位に戦うことは不可能です。人はときに正義を曲げてでも身内を優先させようとして破滅することがありますが、公の場である社会において個人的な感情は「私情」と呼ばれ、公平で健全なビジネスの場からは排除されます。（参考：「TRANS.Biz」より）

５　今週の名言・・・司馬遼太郎と手塚治虫（大坂府出身）の言葉です。

○人の一生というのは、たかが五十年そこそこである。いったん志を抱けば、この志にむかって事が進捗するような手段のみをとり、その目的の道中で死ぬべきだ。

【解説】私のおすすめする作家 No.1 の歴史小説家・司馬遼太郎の言葉です。膨大な歴史資料を収集して、読み解き・分析・照合するという作業を繰り返し後世に残る数々の名作を生み出しています。大阪にある自宅兼記念館は必見です。

【司馬遼太郎について】本名は、福田定一（ふくだ　ていいち）。筆名の由来は「**司馬遷に遼（はるか）に及ばざる日本の者（故に太郎）**」から来ている。小説家、ノンフィクション作家、評論家。大阪府大阪市生まれ。産経新聞社記者として在職中に、『**梟の城**』で**直木賞**を受賞。歴史小説に新風を送る。代表作に『**竜馬がゆく**』『**燃えよ剣**』『**国盗り物語**』『**坂の上の雲**』などがある。『**街道をゆく**』をはじめとする多数のエッセイなどでも活発な文明批評を行った。

○人間は、果てしなく賢明で、底しれず愚かだ。この壊れやすい地球に対してどう対処するのかは、ここ百年くらいで選択が決まる。でもこれは、やり直しのきかない、一度限りの選択になるだろう。

【解説】「**鉄腕アトム**」「**マグマ大使**」「**リボンの騎士**」「**ふしぎなメルモちゃん**」「**ジャングル大帝**」「**海のトリトン**」など数多くのヒット作品を生み出した漫画化・**手塚治虫**氏の言葉です。**文明批判・科学技術批判のメッセージ**が込められた作品も多く、この言葉は令和に生きる現代人に突きつけられた大きな宿題でもあり、**自然災害が続く現代日本への警鐘**でもあります。手塚治虫氏は昭和の時代の少年・少女そして大人の心を夢中にさせた漫画界の巨匠です。大阪帝国大学附属医学専門部（現大阪大学医学部）を卒業して**医師免許も取得**していました。

６　入試によく出る漢字・・・『一字訓ベスト400』から・その１５　いくつ読めますか？

①還る	（還暦）	②推す	（推薦）	③悪む	（憎悪）	④誉める	（栄誉）	⑤綻びる	（破綻）
⑥脅かす	（脅迫）	⑦吠える	（遠吠え）	⑧執る	（執務）	⑨慄える	（戦慄）	⑩憶える	（記憶）
⑪撫でる	（愛撫）	⑫躇う	（躊躇）	⑬飢える	（飢餓）	⑭啖う	（健啖家）	⑮襲う	（襲撃）
⑯了る	（了解）	⑰謳う	（謳歌）	⑱奢る	（驕奢）	⑲賜る	（賜杯）	⑳悔いる	（後悔）

7　今週の一冊・・・伊東潤氏の『茶聖』（幻冬舎）です。

利休と秀吉、真の勝者はどちらだったのか？
「茶の湯」という安土桃山時代を代表する一大文化を完成させ、天下人・豊臣秀吉の側近くに仕えた千利休。茶の湯が、能、連歌、書画、奏楽といった競合する文化を圧倒し、戦国動乱期の武将たちを魅了した理由はどこにあったのか。利休は何を目指し、何を企んでいたのか。秀吉とはいかなる関係で、いかなる確執が生まれていったのか。
（参考：本書裏表紙説明より）

【解説】本書は、５００ページを超える大作で、豊臣秀吉が天下を手中にしていく過程で、秀吉の心を陰で（茶室で）巧みに操りつつ「戦を避け、**世の静謐**（＝世の中が穏やかに治まっていること・静かで落ち着いていること）**を願う**」茶人千利休の生涯をかけた闘いが緻密に描かれています。「日本史Ｂ」の教科書では「豪商をはじめ、信長・秀吉らの権力者や武将たちのあいだで、茶の湯が好まれたが、堺の商人千利休は侘茶を大成させて、妙喜庵にある待庵のように質素な茶室や独特の茶道具などを生み出した。一方、秀吉は黄金の茶室をつくったり、多様な人々を参加させた北野大茶湯を１５８７年に開くなど、利休とは異なる方向で茶の湯を用いた。」と**わずか5行の記述で終わってしまいます**が、実はその裏に様々な人間模様、歴史の面白さが潜んでいます。これまでも数多くの作家によって「秀吉と千利休」の確執は小説化されていますが、この伊東潤氏の一冊は秀逸です。戦場は二畳の茶室、そこで繰り広げられる天下をも左右する緊迫の心理戦が描かれています。信長、秀吉、家康……死と隣り合わせで生きる者たちとの熱き人間ドラマが繰り広げられ、利休の正体は、真の芸術家か、戦国期最大のフィクサーか、今それが明らかになる一冊です。**日本史選択者必読の書**で、私も高校時代にこの一冊に出会っていたら歴史の教師を目指していたかも。

【作者・伊東潤氏について】１９６０年、神奈川県横浜市生まれ。早稲田大学卒業。『黒南風の海―「文禄・慶長の役」異聞』（PHP 研究所）で第１回本屋が選ぶ時代小説大賞を、『**国を蹴った男**』（講談社）で第３４回**吉川英治文学新人賞**を、『**巨鯨の海**』（光文社）で第４回**山田風太郎賞**と第１回**高校生直木賞**を、『**峠越え**』（講談社）で第２０回中山義秀文学賞を、『義烈千秋　天狗党西へ』（新潮社）で第２回歴史時代作家クラブ賞（作品賞）を受賞。『城を噛ませた男』『**国を蹴った男**』『巨鯨の海』『王になろうとした男』『**天下人の茶**』で５度、**直木賞候補**に。（参考：本書表紙裏の著者紹介文より）

8　日本全県の名所とスイーツめぐり…第19回は大阪府です。

○名所　（参考：「ぐる旅」その他より）

◆大阪城・・・大阪城の天守閣は現在までに３度造営されていて、現在の天守閣が完成したのは昭和６（１９３１）年。一度は落雷により焼失しましたが、当時の大阪市長・関一によって再建が提唱され、市民の寄付金によって竣工しました。最上階の展望台、黄金の茶室、兜や陣羽織の試着体験コーナーなど見どころも多い人気の観光スポットです。

◆司馬遼太郎記念館・・・大阪難波から近鉄奈良線で８駅の「八戸ノ里駅」で下車　徒歩約８分のところにあります。「街道をゆく」「功名が辻」ほか数多くの作品を世に送り、平成８年に急逝した作家・司馬遼太郎の精神を伝えるべく、２００１年にオープンした施設です。約２３００平方メートルの敷地には、司馬氏が３０年間にわたり執筆活動を続けた自宅と**安藤忠雄氏設計の記念館**が隣接して建っています。正門をくぐれば雑木林風の小さな庭が広がり、執筆中の雰囲気そのままに保存された氏の書斎を窓越しに見学できます。記念館は高さ１１メートルの壁面全体が書棚となっていて、約**2万冊の書籍**に圧倒されます。他に自筆の原稿や絵などの展示コーナー、司馬氏の在りし日の映像を上映するコーナーなどがあります。また年に数回、企画展も開かれ、ファンの聖地となっています。

○スイーツ・土産

【551HORAI・豚まん】（551蓬莱）大阪土産で外せないのが「５５１蓬莱」の「豚まん」。濃厚な豚肉の餡とやわらかな皮の組み合わせは、一度食べたら忘れられない味です。豚まんの１日の平均売上げ個数は、なんと**17万個**。驚くべきことに、豚まんは１個ずつていねいに手作りされています。「５５１蓬莱 エキマルシェ新大阪店」では、蒸したてを食べながらお土産用のチルド商品を購入することができます。まだ食べたことがないという方はぜひ！

【みたらし小餅】（千鳥屋宗家）みたらし団子というと、お餅の外側にたっぷりとタレがかかっているものを思い浮かべますが、こちらの商品は**お餅の中に関西風の醤油だれが入っています**。１口サイズの白いお餅を噛むと、中からトロみのあるみたらし餡が出てきます。食べやすく、かつおいしいと評判の和菓子です。この千鳥屋宗家は、**創業380年**を超える歴史ある菓匠です。

9　保護者の皆様へ・・・猛暑が続いています。熱中症の対策も。

今週末の２８日（金）からは２学期がスタートします。体育祭の練習等も始まります。コロナウイルス感染防止策に加えて熱中症の対策も不可欠です。十分な水分補給のために**お茶・スポーツドリンクの準備**をよろしくお願いします。

【表面の問いの答】「To make a costly sacrifice in course of justice」類義語としては「**可愛い子には旅をさせよ**」「**心を鬼にする**」などがある。《参考》馬謖はなぜ暴走したのか？ →軍事的才覚に恵まれ、諸葛亮を実の親のように慕っていた馬謖ですが、最後まで命令に背いたことへの反省を述べることはありませんでした。それどころか、「自分は諸葛亮を恨まない」とさえ言い残しているところを見ると、馬謖は諸葛亮に何かを期待して違反を犯したとも考えられます。当時の軍内では街亭の戦いを千載一遇のチャンスととらえ、もっと積極的に攻め上がって一気に勝利を収めようとする意見がありました。それらは慎重派の諸葛亮から採用されることはありませんでしたが、馬謖はほかの忠臣が進言して却下された作戦でも、自分がうまく取り入って指揮官になり、土壇場で別の作戦に切り替えれば諸葛亮が合わせてくれるはずだと踏んだのではないでしょうか。　（参考：「TRANS.Biz」より）

①かえる　②おす　③にくむ　④ほめる　⑤ほころびる⑥おびやかす⑦ほえる⑧とる　⑨ふるえる⑩おぼえる
⑪なでる　⑫ためらう⑬うえる　⑭くらう・くう⑮おそう⑯はかる　⑰うたう⑱おごる⑲たまわる⑳くいる